

2025年8月16日

内閣総理大臣	石破	茂	様
防衛大臣	中谷	元	様
陸上自衛隊幕僚長	荒井	正芳	様
同 第15旅団長	泉	英夫	様
同宮古島駐屯地司令	比嘉	隼人	様

抗議並びに申し入れ

政府・防衛省は、2022年12月、改定「安保三文書」（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）の閣議決定をもって、軍事予算を倍増するとともに反撃能力と称する敵基地攻撃能力の保有を決定した。これは段階を画する日本の戦争国家化への道であり、われわれは満身の怒りを込めて抗議する。

この間、日本政府は米国と一体になって「台湾有事」を煽り立て、「台湾有事」は「日本有事」だとして宮古島、石垣島、与那国島など琉球弧の島々に自衛隊基地を建設してミサイル部隊を配置し、中国を敵国と想定した日米共同の軍事訓練を日常的におこなっている。

こうした対中国戦争を想定した基地建設と軍事訓練によって島々の住民は平穏な日常生活を破壊されているばかりか、有事の全島避難（疎開）が計画されるなど、島々がいつ戦場になるかも知れないという恐怖のもとでの生活を余儀なくされている。

今年8月1日、沖縄防衛局長と沖縄を管轄する陸上自衛隊第15旅団長が交代した。それに合わせるかのように宮古島駐屯地は8月5日から6日にかけて「新隊員ら16人が伊良部島の長山港から下地島周回道路を1周し、佐良浜漁港までの公道を徒歩訓練。災害対処に必要なとなる部隊移動能力の向上」（宮古毎日新聞8/6）の行軍訓練を実施した。

この行軍訓練中の8月6日早朝、島を戦場に見立てた戦地の実戦訓練との危機感を抱いたミサイル基地いらない宮古島住民連絡会のメンバーが、「いらぶ大橋海の駅」の駐車場で休憩中の自衛隊員にマイクで声をかけたところ、宮古島駐屯地司令で宮古警備隊長の比嘉隼人一佐はメンバーに向かって、いきなり怒鳴りながら駆け寄ってきた。そして大声の怒声、罵声で叫びながらメンバーの目の前に来て「ここは許可を取っているんだ。」メンバーに向かって「許可を取ったのか?」「許可を取れ!」「許可を取って来い!」と畳みかけるように命令口調で怒鳴り続けたのである。

後に海の駅管理者に確認したところ、同駐車場使用には許可はならず、当日、宮古島駐屯地自身も許可を取っていないとのことであった。

8月6日の比嘉司令の怒声及び暴言は戦争に反対し、自らの生活を守ろうと行動する市民を恫喝し威圧するものであり、断じて許されるものではない。

今年 9 月 11 日から 9 月 25 日まで、全国各地での陸上自衛隊と米海兵隊等による日米実動訓練「レゾリュート・ドラゴン 25」、9 月 16 日から 9 月 24 日まで陸上自衛隊と米陸軍および豪陸軍との実動訓練・共同指揮所訓練「オリエント・シールド 25」が告知されている。「レゾリュート・ドラゴン 25」では米海兵隊が石垣島で新型地対艦ミサイル「NMESIS」を配備し訓練する。これらは何れも「台湾有事」を想定した実戦訓練にほかならない。

中国の脅威があおられる中で琉球弧の島々では日米軍事演習が拡大強化され「戦争前夜」の状況が作られている

日米両軍の琉球・沖縄からの即時撤退と戦闘訓練の中止を要求する。ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会の行動を支持・連帯し、以下申し入れる。

記

1. 8 月 9 日付でミサイル基地いらない宮古島住民連絡会が申し入れた「宮古島駐屯地司令の市民への暴言と恫喝に対する抗議と公開質問」に誠実に答えること
2. 8 月 21 日～9 月 1 日日米豪軍共同指揮所演習 YS-89(ヤマサクラ-89)、9 月実施予定の日米豪軍共同訓練「オリエント・シールド」ならびに日米実動訓練「レゾリュート・ドラゴン」を中止すること
3. 憲法違反の「安保三文書」を速やかに撤回すること
4. 琉球弧の島々から自衛隊基地を撤去し、ミサイル配備をやめること
5. 代執行による大浦湾埋め立てを中止し、辺野古新基地建設をやめること
6. 浦添新軍港建設を直ちにやめること
7. 市民生活を脅かす港湾、空港などの民間施設を軍事利用しないこと
8. 戦争訓練たる市街地での軍事行軍を中止し、今後実施しないこと
9. すべての軍事演習を中止し、行わないこと
10. 憲法違反の自衛隊を解体すること
11. 日米安保条約を破棄すること

以上

単一労組協議会

関西単一労組

大阪市淀川区十三東 3-16-12

TEL: 06 (6303) 0449

全関東単一労組

東京都台東区小島 1-8-7

TEL: 03 (3863) 3433